

Report

身近な自然の観察・記録活動 石神井川緑道版

2020. 8. 28

一人ひとりの自主活動 だれでも参加できます

活動：月2回(第二木曜日・第四金曜日)10:00より(雨天中止)
コース：帝京大学付属病院北詰・御成橋たもと→金沢橋
問合せ・連絡先：090-8646-9757 木村松夫 com-matchan@hotmail.co.jp

5年続けていても、 分からない植物続々登場！

真夏の屋外活動が自粛されるようになったのは新型コロナウイルス流行のもっと前、一昨年ごろからでしょうか。昨年は最初から真夏のイベントの企画は立てず、今年は新型コロナウイルスの感染拡大防止と相まってさらになにもなし。でも、しなければならないことはある。すごく半端な8月でした。久しぶりに屋外フィールドワークに出かけると、今度はポーっ。花の名前は思い出せないし、だいたい5年もここを見続けてきて、まだ知らない植物に出くわして・・・、ため息ばかりの観察・記録活動です。

何じゃこれは？ 分かんねえのぼっかし。だれか教えて！



帝京大学附属病院北側の JR 社宅の敷地フェンスに絡まって伸びているこのつる植物。葉の切れ込みが深くて比較的大型で、ヤマグワの葉にも似ているのですが、先端部を見ると木本ではなさそう。さて、なんでしょうか？ だれか教えてください。

同じつる性の植物（ヘクソカズラ）に絡んでいる緑色の物体は？ 確かにアオムシ。かなりの大きさなのでアゲハチョウに近いと思うのですが、頭の形状が違います。

このくらいことは自分で調べられなきゃダメ。過日戴いた東京都公園協会賞奨励賞の3万円で昆虫図鑑と野鳥図鑑を買うことにしていますが、このアオムシが分かる図鑑を求めて、早速、調べよう！



スベリヒユのF1種=ポーチェラカの第二世代、繁殖中



葉は確かにスベリヒユなのですが、そうならば花は小さくても黄色い可愛い花を咲かせるはずなのに、この写真中央のぽつんと白いものは何なのよ？ 花であって花でなし！ スベリヒユを遺伝子操作して園芸種として開発されたポーチェラカの第二世代だと思われます。F1品種、つまり第一世代のみが華々しく咲いて、第二世代は「花を持たない」=交配して世代を引き継がないという植物。それがまちなかの植物にも広がってきているのではないかと思います。

花の痕なのか花なのか？ →

月見草（マツヨイグサ）の仲間でも小型のものや真昼間でも開花するものに「アレチマツヨイグサ」とか「メマツヨイグサ」という種があります。これ、図鑑によりまちまちで困ったものなのですが、右の写真の筒先に4つの花弁が付いたように見える植物。多分、メマツヨイグサの花の痕ではないかと思えます。引き続き要観察です。



←花のようで花でなし！

こちらはツタです。ツタというのはブドウの仲間、確かにその葉の形も似ています。房状になる実を考えれば、その花も穂状に付くはず。とすると、左の写真の葉の根元に付いている花のようなものは花ではなくて、何なの？ 葉の芽出しなのかしら？

ヒマワリも咲く緑道↓

川辺の護岸に沿って立てられているフェンスの下から、こんなものも生えていました。川面に向かって咲いているので気が付かなかったのですが、同伴のお仲間が自信なげに「これ、もしかしたらヒマワリでは・・・？」「なに言ってんだい。こんなところに生えているわけないじゃん」と頭から否定するも、よくよく見れば、ありや、ありや、ヒマワリですよ。世の中、なんでもありの時代になってきました。



次回石神井川は9/10、10:00 御成橋出発